

業務名：令和7年度 公共事業労務費調査オンラインシステム運用保守業務
 特定企業名：東芝デジタルソリューションズ株式会社
 住所：神奈川県川崎市幸区堀川町72-34
 代表者：代表取締役 島田 太郎
 決定日：令和7年2月25日

評価項目	評価の着目点		配点	企画提案者 東芝デジタルソリューションズ(株)
	判断基準			
業務実績	過去10年間の同種又は類似業務の実績の内容・件数		企業と同種又は類似業務の実績は、企画競争参加資格の要件を確認するために用いるため、これらを満たさない者の企画提案書の特定は行わない。	数値化しない 要件を満たしている
ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する指標の適合状況	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく認定等(えるぼし・プラチナえるぼし認定企業、一般事業主行動計画策定企業)		「プラチナえるぼしの認定」、「えるぼし1～3段階目の認定」(いずれの段階においても「評価項目3:労働時間等の働き方」の基準を満たしていることが必要。)を取得している場合及び一般事業主行動計画(計画期間が満了していないものに限る。)を策定・届出(常時雇用する労働者の数が100人以下の企業に限る。)をしている場合には優位に評価する。 ① プラチナえるぼし ② えるぼし(3段階目) ③ えるぼし(2段階目) ④ えるぼし(1段階目) ⑤ 一般事業主行動計画	① 5 ② 4 ③ 3 ④ 2 ⑤ 1
	次世代育成支援対策推進法に基づく認定(くるみん・プラチナくるみん・トライくるみん認定企業)		「くるみん認定」(平成29年3月31日までの基準、平成29年4月1日から令和4年3月31日までの基準又は令和4年4月1日以降の基準)、「プラチナくるみん認定」又は「トライくるみん認定」を取得している場合には優位に評価する。 ① プラチナくるみん認定 ② くるみん認定(令和4年4月1日以降の基準) ③ くるみん認定(平成29年4月1日から令和4年3月31日までの基準) ④ トライくるみん認定 ⑤ くるみん認定(平成29年3月31日までの基準)	① 5 ② 3 ③ 3 ④ 3 ⑤ 2
	青少年の雇用の促進等に関する法律に基づく認定(ユースエール認定企業)		「ユースエール認定」を取得している場合には優位に評価する。	4
【※複数の認定等に該当する場合には、最も配点が高い区分により加点を行う。】				
業務実施体制	業務分担及び業務実施体制の妥当性		業務実施に必要な分担が的確に記載されている場合、優位に評価する。なお、下記に該当する場合は特定しない。 ① 業務の分担構成が不明確又は不自然な場合。 ② 再委託の内容が主たる部分の場合、再委託の理由が記載されていない場合又は不明確な場合。 ③ 記載がない場合。	10 10
予定管理技術者の経験及び能力	資格要件	技術者資格 技術者資格及びその専門分野の内容	下記の順位で評価する。 ①技術士(総合技術監理部門(情報工学部門)、又は情報工学部門) ①情報処理技術者 ・プロジェクトマネージャ試験 ・システムアーキテクト試験 ・ネットワークスペシャリスト試験 ・データベーススペシャリスト試験 ・システム監査技術者試験 ・ITサービスマネージャ試験 ・エンベデットシステムスペシャリスト試験 ・ITストラテジスト試験 ・情報処理安全確保支援士試験 ①情報処理安全確保支援士 ②情報処理技術者 ・応用情報技術者試験 ・基本情報技術者試験 ③PMP(Project Management Professional) ④上記以外の場合は特定しない	①7 ②5 ③0 ④特定しない 7
	専門技術力	業務執行 過去10年間の同種又は類似業務の実績の内容	下記の順位で評価する。 ①同種業務の実績が2件以上ある ②同種業務の実績がある ③類似業務の実績がある ④業務実績がない場合は特定しない	①19 ②13 ③7 ④特定しない 19
	専門性	手持ちの業務金額(特定後未契約のものを含む。)	全ての手持ち業務の契約金額の合計が5億円以上又は手持ち業務の件数が10件以上の場合には特定しない。	数値化しない 手持ちなし

実施方針・実施フロー・工程表・その他	業務理解度	目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。 ①正しく理解 ②概ね理解 ③理解度が低い	①5 ②3 ③0	3.6
	実施手順	業務実施手順を示す実施フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。 ①妥当性が高い ②概ね妥当 ③一部不都合な部分有り	①5 ②3 ③0	3
	工程表	業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。 ①妥当性が高い ②概ね妥当 ③一部不都合な部分有り	①5 ②3 ③0	4.3
	その他	有益な代替案及び重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。 ①「有益な代替案」、「重要事項の指摘と対応」の2つがある ②「有益な代替案」、「重要事項の指摘と対応」のいずれかがある ③提案がない場合	①5 ②3 ③0	3
特定テーマに対する企画提案 特定テーマ 「オンラインシステムの運用保守にあたり、システムダウン等トラブル防止及び発生時の対応に関する留意点について」	的確性	業務内容等で示した与条件との整合が取れている場合に優位に評価する。 ①整合性が十分ある ②整合性がある ③整合性が不十分	①6 ②3 ③0	6
		必要なキーワード(着眼点、問題点、解決方法等)が網羅されている場合に優位に評価する。 ①キーワードが十分網羅 ②キーワードが網羅 ③キーワードの記述が不十分	①6 ②3 ③0	3
		業務の難易度に相応しい提案となっている場合に優位に評価する。 ①難易度に十分相応しい ②難易度に相応しい ③不十分	①4 ②2 ③0	4
		業務の重要度を考慮した提案となっている場合に優位に評価する。 ①重要度が十分に考慮 ②重要度を考慮 ③重要度の考慮が不足	①4 ②2 ③0	4
		業務の的確性に著しく欠ける場合は特定しない。	数値化しない	—
	実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。 ①説得力が十分ある ②説得力がある ③説得力が不十分	①6 ②3 ③0	6
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。 ①複数の類似実績がある ②類似実績がある ③類似実績がない	①4 ②2 ③0	0
		利用しようとする技術や手法等が適切な場合に優位に評価する。 ①適切である ②上記以外	①4 ②0	4
		提案内容によって想定される効果が適切な場合に優位に評価する。 ①適切である ②提案内容と不整合	①4 ②0	4
		業務の実現性に著しく欠ける場合は特定しない。	数値化しない	—
独創性	下記の4項目を総合的に判断して配点を行う。 経験に基づく、前例のない提案がある場合に、優位に評価する。 ・周辺分野、異分野技術を援用した、高度な技術手法の提案がある場合に優位に評価する。 ・複数の既存技術を統合化する提案がある場合に優位に評価する。 ・先進的技術の採用提案がある場合に優位に評価する。 ①3項目以上の提案有り ②2項目の提案有り ③1項目の提案有り ④提案無し	①9 ②6 ③3 ④0	7	
参考見積	業務コストの妥当性	提示した業務規模を上回るか、又は提案内容に対して見積が不適切な場合には特定しない。	数値化しない	適切である
合 計			108	92.9